

継続中の重要研究開発の精査【概要】

- 平成15年9月11日 科学技術政策担当大臣・総合科学技術会議有識者議員 -

平成15年度予算が10億円以上の研究開発について、各府省の中間評価の実施状況を把握。長期間未実施のものを指摘
 主要なもの10件を抽出して目標達成度、管理運営状況、評価状況、及びこれらの総合を5段階絶対判定（極めて良い、良い、普通、悪い、極めて悪い）
 平成16年度科学技術関係概算要求の優先順位付け等に反映

府省等における中間 評価の実施状況

10億円以上の研究開発
145件（8府省）

前回評価からの経過期間

2年以内の研究開発
109件（75.2%）

3～4年の研究開発
20件（13.8%）

5年以上の研究開発
16件（11.0%）

「国の研究開発評価に関する大綱的指針」に基づき、適切に中間評価を実施するよう関係府省に対して指摘。

精査対象を抽出

【10件の研究開発を抽出】

超高速フォトニック・ネットワーク技術に関する研究開発
ゲノム科学総合研究
遺伝子多型研究（第 期）
地球観測フロンティア研究
高温工学試験研究炉

Bファクトリー計画
大型ヘリカル装置（LHD）
地層処分技術調査
石油資源遠隔探知技術の研究開発
地域活性化創造技術研究開発事業

精査

精査結果

【総合判定】 極めて良い：3件（ , , ） 良い：3件（ , , ） 普通：4件（ , , , ）

【目標達成度】

概ね良好と判断されたが、一部に設定された目標の達成指標や達成時期に明瞭性を欠くものが認められた。

【管理運営】

概ね適切な体制や運営状況が認められたが、計画の前倒しや管理運営の一層の効率化を行うことが求められるものが多かった。

【評価】

全般に科学技術の側面から質の高い評価が行われている一方で、社会・経済面や国民の視点からの評価が不足していると判断された。

【個別の研究開発の精査結果】 別紙参照

各研究開発で指摘した事項については、府省や実施機関において、推進体制の改善や資源配分へ反映されるよう求める。

個別の研究開発の精査結果

研究開発名	研究開発の内容	精査の結果		
		H15 予算	総合判定	
超高速フォトニック・ネットワーク技術に関する研究開発【総務省】	全ての情報伝送処理を光領域で高品質・高効率に行うための研究	17億円	良い	<ul style="list-style-type: none"> 概ね適切に推進されている。 今後は、個別技術の統合による全体のシステム化を期待。
ゲノム科学総合研究【文部科学省】	遺伝子、タンパク質、ゲノム領域の構造と機能に関する研究	35億円	極めて良い	<ul style="list-style-type: none"> 専門家による質の高い評価が行われ適切に対応されている。 今後、広く国民の参画による評価が必要。
遺伝子多型研究(第 期)【文部科学省】	テーラーメイド医療の確立に資するため、疾患関連遺伝子の一塩基多型(SNP)を体系的に解析	11億円	極めて良い	<ul style="list-style-type: none"> 成果は極めて大きい。 成果を実用化につなげるプロセスの検討が必要。
地球観測フロンティア研究【文部科学省】	広く地球環境変動の予測に資するため、必要なデータの取得やそれらの集中的解析	15億円	普通	<ul style="list-style-type: none"> 概ね適切に推進されている。 府省横断的なデータの分析・活用が必要。
高温工学試験研究炉【文部科学省】	試験研究用原子炉を建設・運転し、高温ガス炉システムの技術基盤を確立	26億円	普通	<ul style="list-style-type: none"> 安全性及び水素生産の基礎的実験で良好な成果が得られつつある。 評価システムの改善と実用化に向けた意義・可能性の検証が必要。
Bファクトリー計画【文部科学省】	世界最高水準の加速器及び検出器により、粒子と反粒子の対称性の破れに関する小林・益川理論を検証	86億円	極めて良い	<ul style="list-style-type: none"> 優れた成果が上がっている。 今後は、我が国の資金投入の焦点を定めて進めることが必要。
大型ヘリカル装置(LHD)【文部科学省】	世界最大の超伝導大型ヘリカル装置により、核融合・プラズマ物理学に関する実験研究等を推進	54億円	良い	<ul style="list-style-type: none"> 計画は、順調に進捗している。 第2期計画に向けて、計画の前倒し達成を期待。
地層処分技術調査【経済産業省】	原子力発電所等で発生する放射性廃棄物を隔離・処分するための研究開発・技術調査	36億円	普通	<ul style="list-style-type: none"> 個別の研究開発は当初目標設定通りに前進している。 今後は、処分地の具体的な設計も念頭に推進すべき。
石油資源遠隔探知技術の研究開発【経済産業省】	衛星リモートセンシング技術を開発し、地質・資源に関するデータ・情報を提供	23億円	普通	<ul style="list-style-type: none"> 個別技術の目標達成度は概ね適切である。 事業化による社会還元の視点から、透明性のある外部評価が必要。
地域活性化創造技術研究開発事業【経済産業省】	中小企業者等が自ら行う新技術開発等に都道府県が補助を行う場合にその一部を補助	16億円	良い	<ul style="list-style-type: none"> 目標設定は明確で、制度の評価も適切に行われている。 事業化率の向上や事業運営上の各種の改善が必要。